

株式会社ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局

2022 年度放送番組審議会 議事録

1. 開催日時

2023年3月20日(月) 10:30より

2. 開催場所

吉祥寺エクセルホテル東急 7階「フォレストルーム」

3. 出席者

委員長 : 見城 武秀様

委員 : 石坂 和也様、小島 祐一様、金子 彰様、吉清 雅英様、和久津 豊様

事業者側 : 武蔵野・三鷹局 局長 栗原 尚孝、映像制作第一部 リージョナルマネージャー 関原 真人、
小金井事務所 拠点長 小林 淳、武蔵野・三鷹局 地域プロデューサー 島田 かおり、
武蔵野・三鷹局 地域プロデューサー 鬼木 菜摘

4. 委員ご紹介

事業者側より、出席した委員全員の紹介があった

5. 委員長選出

見城 武秀委員長が全委員の賛同をもって選出された

6. 報告事項

事業者側から事業報告及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった

7. 議題 (審議番組 : 『ジモト応援! つながる News』、『ふくあじ 東京編』)

各委員からは、審議番組に関して以下のような意見が出された

- 『ジモト応援! つながる News』について。スタジオから外に出での収録はとても良いと感じた。「三鷹阿波おどり」はイレギュラー形式ではあったが昨年夏3年ぶりに開催でき、後日番組でもインタビューしていただいた。キーステーションが三鷹駅前ということもあり音声に電車音なども拾っていたが、臨場感があった。
音声について、収録時に気を付けている点はあるか。
- 『ふくあじ』については、タイトルを見てどういう意味なのかと疑問を抱いたが、番組自体は特徴のある飲食店のストーリーと、自慢の一品の映像や食べている方の表情が本当に美味しそうで良い番組だと思った。

- 『ジモト応援！つながる News』では、成蹊大学の学生がメディアリテラシー演習としてラジオ番組を制作している取り組みが放送された。ラジオ番組の内容は、学園長が生出演され「女性活躍・ジェンダー平等の社会実現のために何が必要か」を題材に学生の質問に対し学園長がご自身の経験を踏まえて答えていただくものだった。ニュースの中では大体は把握できたが、実際のラジオ番組本編の中に重要な部分があり、ダイバーシティやLGBTQ の問題をより理解できる内容であったため、学園長の回答や解決策の発言についてもニュースで取り上げてほしい。
- 上記意見について適格な意見だと思うが、同時にニュースは速報性を求められているので重要なポイントを短時間で伝えるのは難しいとも感じる。
- イベントは全てが3年または4年ぶりの開催。中断を経てフル開催ではないが何とかやることができた。自身もイベント等を主催・協力する立場なので、現場の苦労を良く知っており番組の中でも紹介していただいた。来街者が非常にリアルなもの（イベント）に飢えていらっしまったので、好意的に受け止めていただき、どのイベントもお子さん連れが多く笑顔あふれるような光景があった。番組でうまく伝えて頂いたことには感謝しかない。
- 次年度のイベントは全てフル開催を目指しているが、この4年間で実行する側の世代交代も進み、コロナ禍前にできていたことがスムーズにできなくなるなどの課題を抱えながら、組織が動いていくことになるだろうと現場で感じている。また、「2025年問題」と以前謳われたように、社会を中心に回していた団塊世代がいよいよ本格的に引退となり、参加側も実行側も世代交代しながらモノ・コトが動いていく段階に入った。色んな価値観の変化も含めて社会が動く時期に入ったと考えるが、今後どのように放送でうまく吸い上げていただけるかに関心がある。
- 地域の課題を丹念に丁寧に拾っていただいております。三鷹市のシティプロモーションの一翼を担っている番組作りとなっていると感じ、改めて感謝申し上げます。『ジモト応援！つながる News』については、スタジオを飛び出しライブ感があって良い取り組みであると思うが、キーステーション放送開始の時点では感染症の状況をまだ見通せなかったのではないかと察する。思い切った決断だったのではないかと。その決断に至った経緯と思いを改めて教えてほしい。
- 武蔵野市としても広報番組を放送しており、シティニュースとして行政のお知らせを工夫しながら企画・制作している。『ジモト応援！つながる News』は、武蔵野市以外にも広がりをもって発信しており、行政とは違い地域のことや民間の方の情報を伝えていただいている。行政も含めてだが、地域で暮らす市民の方に愛着をもってもらえることが大事であると思う。市のニュースについてどうやって関心をもってもらえるかが悩ましいところで、地域に愛着を持っていただくためのメディアがあるということが有難い。シティニュースでも番組からアイデアを生かせるのではないかと感じた。
- 番組の内容は適切であり問題になるようなことは一切無かった。

事業者側からは、以下の発言があった

- キーステーションでの収録は電車音も拾うが、マイクを出演者に近づけるなど工夫している。雑音は拾わないようにしつつも外の良さを生かし、例えば鳥のさえずりが入るなど臨場感は大切にしたいと考えている。
また、収録場所についてはほかの場所も検討しており、例えば地域のお店紹介をする際は、その店舗から1日分の撮影を実施するなど、現在の場所がマストということではない。
- 『ふくあじ』については、4Kで撮影しており、非常に高精細で撮影できている。J:COMチャンネルの放送は2KのHD画質だが、専門チャンネルの「ケーブル4K」に当番組を提供し、全国放送で4K画質のまま放送しており、綺麗な映像がより映えて、お客様の美味しい表情も綺麗に撮れている。
- ニュース内容については、肝に銘じて「取材の“肝”は何なのか」ということをスタッフ一同に改めて周知し、取りこぼしの無いように尽力していく。
- 世代交代が進んで、「世代が変わることによる困難さ」については、意識していなかったところが正直ある。当然「やらなかったことをやる困難さ」は承知していたが、この世代交代の問題については、今回教えていただいたことで今後吸い上げて皆さんのご苦勞を紹介しつつ、結果「立派なイベントができた」ことを放送でお届けしていきたい。
- キーステーション収録開始の決断については、「外に出て今やるべきなのか」とかなり社内では議論になった。その一方で、全国的に一齐に始めた取り組みということもあり、先行してほかのエリア（千葉・神奈川・埼玉など）では実施していた。その状況も配慮した上で、状況的にまだ収束はしていないが、地域の方からの要望や声を直にお伝えすべき番組でもあるので、スタジオにゲストをお呼びする形よりも「外へ」という判断をした。もちろん撮影時はマスク着用で距離をとって実施してきた。状況によっては3月から徐々に緩和して周りの状況も見つつ今後は進めていこうと考えている。
- 関心をもっていただける方にどう届けるかという点について、弊社も市の職員の方々と同じく課題であると感じている。今はテレビだけではなく、情報の取り方も人それぞれで多種多様であり、これにどうこたえるかというところではあるが、一方でまだまだお茶の間でテレビを見て情報を得る方も多いということも事実。放送事業者としてこの部分を中心に進めていきつつも、様々な方に対応できるような情報提供を進めたい。また、広報番組に関しては、職員の方々と知恵を出し合ってより良いものを放送できるよう取り組んでいきたい。

8. その他の番組、放送に対するご意見

委員から、以下のような意見が出された

- 4月以降はさらにコロナ以前に近い活動行事が行われることと思う。それ自体は喜ばしいことだが、逆にこの3年間、歴史的に見ても大きな意味を持つ3年間だったと思う。必ず後世にこの3年間で何が起こったのかが検証の対象になる。この地域をJ:COM武蔵野・三鷹が取材してきた内容は、歴史的な資料の意味も持つ。ぜひその取材内容や放送にならなかつたものも含めて資料として整備・公開をご検討いただきたい。放送アーカイブ

イブについても以前からお願いしているが、特にこの 3 年間の資料の整備・公開・検証はお願いしたいところである。

- 街の様子を見ると、この 3 年間で古いお店の閉店など目に見える変化もありつつ、新しい建物の建築も始まっており街が動き始めている。コロナが社会を変える動きは今後しばらく続くだろう。また、その影響を検証する意味でも、今後数年も重要なフェーズとなる。「街の記録を残す」という観点もぜひ番組制作時に取り入れてほしい。
- 世代交代が課題とあったが、コロナ前のお祭り映像からどうことが行われていたのかわかるため J:COM にはたくさんの映像資料ある。コロナ後のイベントを新しい方が新しい形で作っていく際、過去のことを知りたい時に J:COM 武蔵野・三鷹の制作映像は資料として大変貴重である。今後、公開・活用できるような仕組みや経路をご検討いただき、マスメディアにはできない地域密着の J:COM 武蔵野・三鷹だからこそできる事として地域貢献の一環となるようお願いしたい。

事業者側からは、以下の発言があった

- 最近の街の祭りの動きをみると（最近では府中・くらやみ祭や浅草・三社祭など）実行委員会の方も「（運営の段取りなどについて）どうだったっけ？」という場面があった。ご指摘を受けたところはまさに実感しており、「こんなことをやっていましたよ」と気軽にお知らせができたらと思うのだが、現状システムが構築されていない。アーカイブについても弱く、今後システム作りについて上層部に提言していきたい。

9. 栗原局長よりお礼とご挨拶

- 貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。対面の審議会は 3 年ぶり。オンラインとの併用だったが非常に活発なご意見をいただき、実のある審議会になった。地域のメディアとして確り襟を正してやらなくてはいけないと改めて思っている。地域の皆様がどのような情報を欲しいのか考えながら、地域の暮らしに貢献したい。地元メディアとして何ができるのかも一度スタッフとよく考え、行政や地元商店街、有識者の皆様からこれからもご意見を頂きながら前進していきたい。

以上